

JICA 特定テーマ評価
（タイ障害者支援）
現地セミナー報告書

JICA 特定テーマ評価
（タイ障害者支援）
現地セミナー報告書

JICA LIBRARY



J1161185(2)

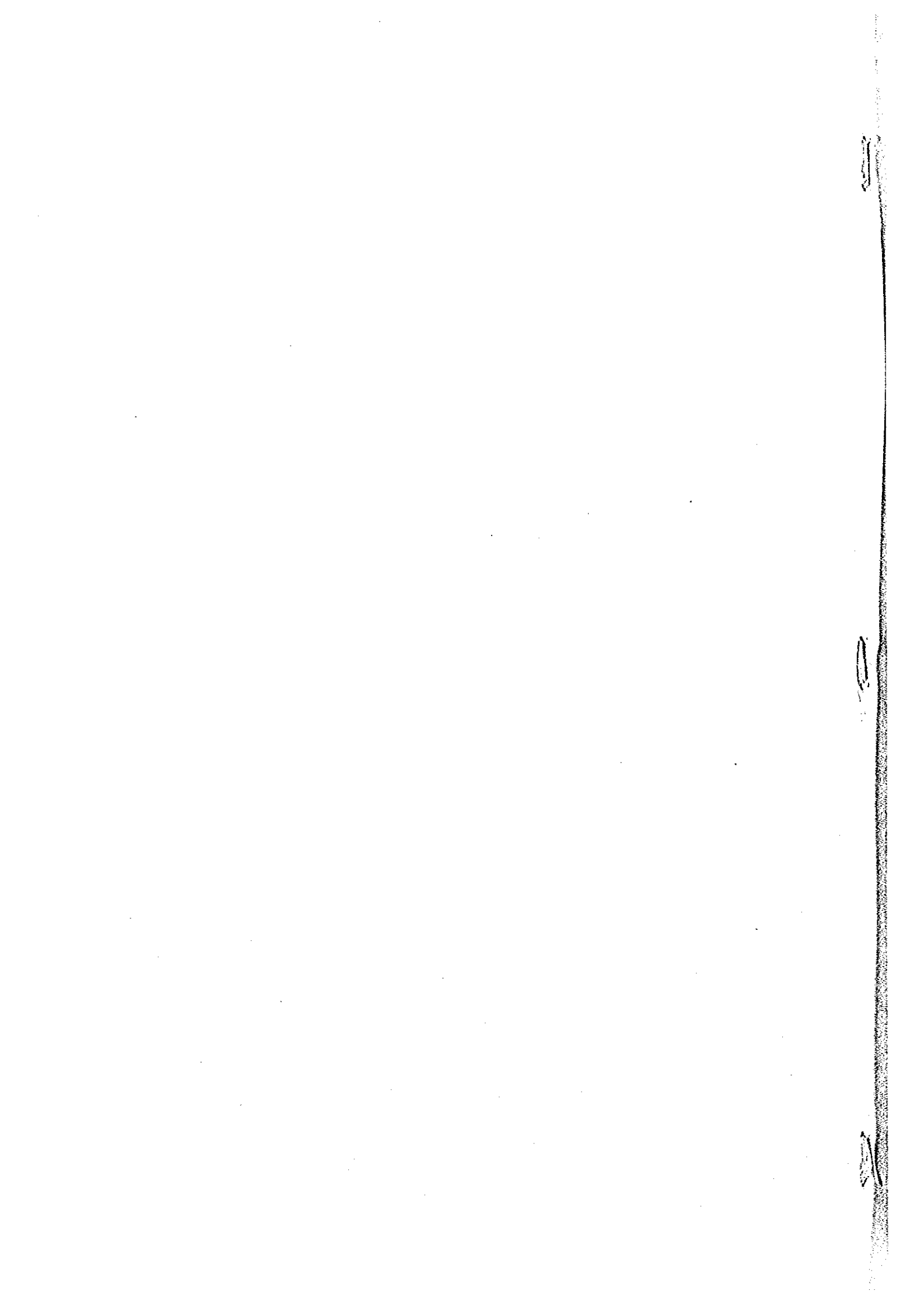
平成 12 年 8 月

国際協力事業団

企画・評価部

企画
JR
00-73

JICA
22
21.6
OVE
RARY



JICA 特定テーマ評価
(タイ障害者支援)
現地セミナー報告書

平成12年8月



1161185 (2)

目次

セミナー概要	1
1. 団長総括	5
2. バンコクセミナー報告	9
・概要	9
・グループ討論概要	10
・アンケート結果概要	11
・まとめ	12
3. バタヤセミナー報告	13
・概要	13
・パネルディスカッション／質疑応答の概要	14
・アンケート結果概要	15
・まとめ	16
4. 関係機関との協議概要	17
首相府技術経済協力局 (DTEC)	17
労働社会福祉省公共福祉局障害者リハビリテーション委員会事務局	17
アジア・太平洋経済社会委員会 (ESCAP)	18
＜巻末資料＞	
・セミナー参加団構成・日程	
・セミナー発表原稿および OHP 原稿	
・セミナー配付資料一覧	
・バンコクセミナー資料	
・ Kanitta TEVINTARAPUKTI 氏（公共福祉局）の CBR 論文抄訳	
・グループ討論のレポート	
・アンケート結果の詳細	
・バタヤセミナー資料	
・パネルディスカッション内容	
・質疑応答内容	
・アンケート結果の詳細	
・ニノミヤ副団長による調査報告（チェンマイ県における障害者支援）	

セミナー概要

JICA は 1999 年 8 月にタイにおいて、JICA の過去の障害者支援に係る協力案件の評価（調査名：特定テーマ評価－障害者支援）を実施したが、その評価結果を広くタイの現地関係者にフィードバックするため、以下の概要で現地セミナーを開催した。

(1) 調査団には昨年 8 月の評価調査団に参加したメンバーの他、タイのみならず開発途上国における JICA の障害者支援への取り組みを紹介するため、JICA において障害者支援の計画・実施の総括を担当している環境・女性課員が参加した。

団長 中西由起子 アジアディスアビリティ－・インスティテュート代表
副団長 アキエ・ヘンリー・ニノミヤ カナダ合同教会海外宣教部（元関西学院大学総合政策学部教授）
大川直人 JICA 企画・評価部評価監理室 室長代理
平知子 JICA 企画・評価部環境・女性課員（障害者支援担当）
駒澤牧子 コンサルタント（株）設計計画
関明水 コンサルタント（株）IC Net Thailand

(2) 8 月 19 日（土）にバンコクのアマリ・エイトリウム・ホテルにて、本セミナーを開催し、20 日（日）パタヤのレデンプトール会障害者職業学校にて訓練生などを対象に半日セミナーを開催した。

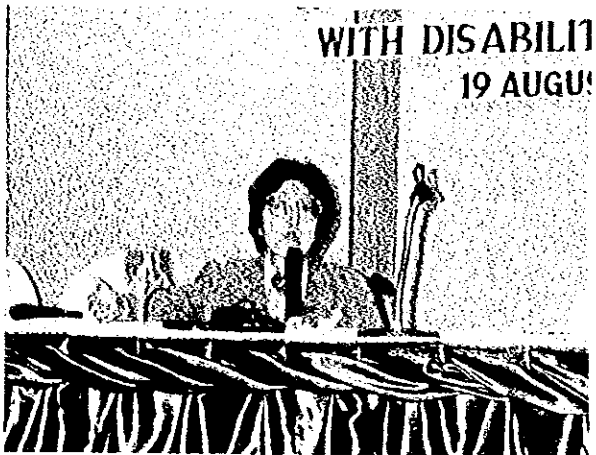
セミナー出席者は障害当事者（身体障害者、視覚障害者、聴覚障害者）、タイ政府関係者、国際機関関係者、日本大使館・JICA 関係者と多様であることが予想されたことから、セミナー資料は、タイ語版、英語版、日本語版、点字版の 4 種類で作成し、セミナー発表は英・タイ同時通訳及び手話通訳を介して実施した。

バンコクにおけるセミナーでは出席者総計が 110 名と予想を上回る数となり、また、出席者構成も特定の団体に偏ることなく、各関係団体間（障害当事者団体を含む NGO、政府、国際機関、大使館・JICA）でバランスの取れたものとなった。

各調査団員による評価結果の発表の後に行われたグループ討論では会場全体を 5 つのグループに分け、地方の障害者支援の施策についてグループごとに討論を行った。討論の結果は各グループの代表者により発表され、興味深い提案が出された。

パタヤのセミナーでは出席者 86 名のうち、レデンプトール会障害者職業学校の生徒・職員が 6 割を占め、障害者の割合が高かった。評価結果の発表に続いて、パタヤではグループ討論の代わりにパネルディスカッションが行われ、地元チョンブリ県から公共福祉事務所関係者および障害者団体代表者が参加し、それぞれの立場からの意見を交換した。

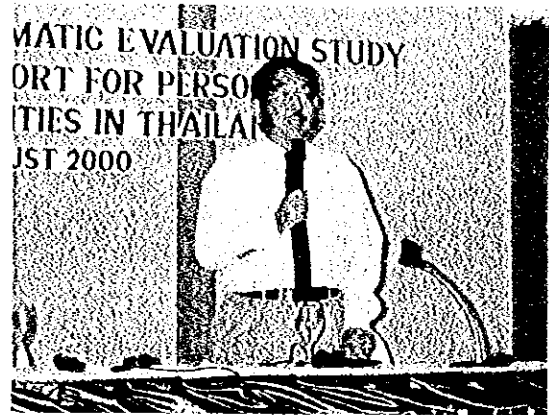
また、両会場において行われたセミナーに関するアンケート調査では、ほとんどの出席者がセミナーに満足するとともに、セミナーから何らかの新しい考えを得たと答えている。



中西団長によるプレゼンテーション

<バンコクセミナーの様子>

2000年8月19日(土)
アマリ・エイトリウム・ホテル



二ノミヤ副団長によるプレゼンテーション



会場の様子



グループディスカッションの様子
(グループ1)



セミナー終了後

＜パタヤセミナーの様子＞

2000年8月20日（日）
レデンプトリストセンター
（レデンプトール会障害者職業学校内）



パタヤ市長によるスピーチ



パネルディスカッション
（左手前は手話通訳者）



会場の様子



セミナー開催後、夜に行われたレデンプトール会障害者職業学校の生徒との交流会



パネルディスカッション時に「どうやってレデンプトール校を知ったか」という質問に答える生徒

＜関係機関表敬訪問の様子＞

2000年8月18日(金)



首相府技術経済協力局 (DTEC)
右手前から武田氏 (シニアアドバイザー/JICA 専門家)、バン
チョン氏 (日本課課長)、アピナン氏 (海外協力第一部部長)。



アジア・太平洋経済社会委員会 (ESCAP)
手前が水田氏、左端はサン氏。

1. 団長総括

はじめに

昨年8月のタイにおける障害者支援の分野における特定テーマ評価が実施された。タイの障害分野には日本の政府、NGOの双方から多くの支援がなされ、関係者の中で日本で研修を受けた者の割合は、他国と比してかなり高かった。このような障害分野での日本に対する全般的に高い好感度に加えて、調査団員の大半がタイとの長期にわたる付き合いがあったことは、仕事の遂行をスムーズにした。

調査の際には、タイの関係者の皆様には多大な御協力をいただいた。調査に合わせてデータをそろえ、施設の活動に関する資料を用意し、インタビュー対象者との時間を調整し、職員を待機させ、会場を設定し、緊張のうちに到着を待っていて下さった団体や機関もある。また手引きや介助の人を頼んで、休日にもかかわらず朝早く遠くからインタビューのために会場まで足を運んで下さった障害者もいる。協力していただいた機関、団体、個人の方々には深く感謝している。

セミナー開催に至ったいきさつ

調査で意図したのは、過去の協力、援助がどのように活かされ、今後の支援をどのような方向で進めていくのかであった。しかし、このように多くの人々の好意のうえに終了した評価は、JICAが今後障害分野での案件を形成する際の指針として活用されるが、外部に公表されるチャンスはなかなかない。何年後かに研修プログラムや協力隊員の派遣という継続事業の質的改善に寄与するのをタイは待つだけで良いのか。タイの関係者は単に労力と時間を提供するだけで、将来JICAがこの成果を素晴らしい事業に転換されるのを見ているだけで良いのか。

今までの研究調査では、調査対象者に対して調査結果を提示することは難しかった。国外の彼らに接する機会がない、報告書を英語やその国の言語に訳す予算がない、そのようなフォローアップの人材に欠けるなど、いろいろな理由が足枷となっていることは、想像にかたくない。

そのため事前に十分な準備期間を置き、フィードバックとなり、広く関係者を対象とする成果の分かち合いともなる、対象者のエンパワメントを目的としたセミナーの開催にチャレンジしてみることにした。

準備に際しての留意点

1. 情報の平等な享受する権利を保障する

報告書は英語訳とタイ語訳の版も作成した。また、会場で全て参加者が同じように情報を受け取ることができるように、コミュニケーション面でのバリアフリーには万全を期した。英タイの同時通訳者には事前に全ての原稿をわたし、また手話通訳者を含めた通訳者との打合わせの場を用意し特に専門用語の擦り合わせを行った。セミナーの資料は点字でも用意した。手話通訳に関しては、バンコクとパタヤの2会場とも全国ろう者協会が推薦する手話通訳者2名

のうち一名の都合がつかず、休憩はあったものの通訳者が約6時間一人で働かなければならないという過酷な条件を強いてしまったことを申し訳なく思っている。

また、セミナーで使用した OHP の表や図は資料として参加者に配付され、新しい概念や情報を理解しやすくした。

2. セミナーを通して広く関係者に情報を伝える

バンコクのセミナーへの招待状は調査での協力機関や団体、過去 JICA の研修に参加した人たちを中心に、全国レベルで活躍する関係団体や個人にも送られた。その結果、東北部などのバンコク以外の地域からも参加者を得られたし、身体、視覚、聴覚の各障害分野から出席してもらえた。その中にはサービス提供者である専門家と消費者である障害者の両方が含まれていたこともあり、各分野、領域の代表者がバランスよく参加していた。

アジアの中でも急速に障害者福祉が発展し、インドシナを含む周辺の国々にとってのロール・モデルの役割を演じるのに相応しく、国際機関からも代表者が出席してくれた。バンコクにアジアの中心として多くの国連団体の地域事務所があるため、調査の対象国をタイとした地の利が生かされた。

3. 特に地方の障害者の参加を奨励する

評価結果から考えられたことの一つに、地方と中央の障害者の学歴や収入等に見る格差があった。今後彼らの機会の均等化をすすめるためにも、サービスの量を増やすだけでなく、啓発活動に力を入れることは必要である。そのためセミナーをバンコク1ヶ所のみでなく、他の都市でも開催することにした。

バタヤのレテンブートル会障害者職業学校は多くの地方出身の学生を集め、また学生は勉強のみでなくバタヤ市の環境アクセスの推進等の権利擁護運動にも熱心であり、また昨年調査にも協力をしてくれた。そのため、もう一ヶ所の開催地にバタヤを選んだ。セミナーには半日しか時間がとれなかったため、ワークショップの形式で、グループ討論のかわりにパネル・ディスカッションを入れ、質疑応答にも時間を割いた。

ワークショップの時間が短かったことを補うために、調査団はバタヤに宿泊し、夜は特に学生を対象に非公式な話し合いの場を持ちたいと申し出てあった。非公式の場で少人数を対象に意見交換を行うつもりが、ナイター用のライトに明々と照らされたバスケットボールコートに200人をこす生徒が待っていて、思いもかけなかった楽しい話し合いの場が持てたことは調査団、生徒の双方にとって収穫であった。

セミナーおよびワークショップの成果

1. 障害問題関係者の啓発

セミナーとワークショップの目的は、障害者支援の分野における特定テーマ評価結果の報告のみでなく、JICA の障害者支援の政策と現状の紹介、さらに障害者の自立生活という概念の徹

底にあった。昨年の調査でも明らかになったように、現実には多くの障害者が地域の中で生活し、障害当事者による地域社会の啓発が盛んに行われているにもかかわらず、JICA への支援の要請は施設中心、公的な団体中心であり、障害者の参加の視点に欠けていることが多かったからである。

ソーシャルワークの観点からの NGO とのパートナーシップ、国連の社会開発の動向にそった障害者施策の行方などの発表の中に、バンコクでは 96%、バタヤでは 100%の人が新しい考えを見つけている。バンコクにはアジア太平洋障害者センターの建設も予定されていて、文字どおり障害分野におけるアジア太平洋の要所となるので、障害者の自立生活の概念は今後も折に触れて強調していくことが必要であると思われる。

2. エンパワメントの推進

報告会は、参加者が講師の話に単に耳を傾ける消極的なエンパワメントでなく、積極的なエンパワメントを目指した。特にエンパワメントの対象として協力を頼んだのは障害をもつ人々であった。

バンコクの中央レベルのセミナーには国連や国際 NGO の国際団体、政府の関係省庁や機関、リハビリテーション関係者や障害当事者の NGO の代表者などの障害関係者が一同に会した。それぞれの分野でトップレベルにいる人たちに評価結果の発表に耳を傾けてもらった後、時間は限られていたがグループ討論の時間を設けて参加してもらった。今後の支援の方向に対して彼らを持つ素晴らしい情報、経験に基づいてのインプットを期待したからである。グループの構成に関しては、似通った立場の人が一ヶ所に集まらないように組み分けを行った。意見を交わすなかでのエンパワメントを期待してのことである。その結果、アンケートでの地方の障害者に支援を行き届かせるための手段として、地方の行政やコミュニティーを対象とした障害者の能力や権利に関する啓発活動、障害者の教育、障害者団体の強化、育成など、建設的な意見が多く、それを自分たちでやっていこうとの意気込みが感じられた。

グループ・リーダーの役は、将来にビジョンを持ち自分たちの団体をリードしている障害当事者にあらかじめ依頼した。彼らと事前の打合わせを行い、専門家の前でともしれば気後れするという事態を招くこともなく、期待どおりの方向に討論を導いてもらった。これは専門家にとっては彼らの能力を実感する機会となり、障害者にとっては自信を強めるといえるエンパワメントのプロセスとなった。

おわりに

JICA としてこのようなセミナーやワークショップを主催することは初めての経験であった。主催者として足りないノウハウの部分は、タイにある障害当事者の国際団体、DPI（障害者インターナショナル）アジア太平洋事務所に補ってもらい、またそのタイ支部となるタイ障害者協議会（タイ DPI）にも協力を仰いだ。JICA の新たなチャレンジが成功した裏には、彼らの支援があったからであり、感謝したい。

先進国のODAを担当するCIDA、DANIDA、FIDIDA、SIDA、USAIDなどはそれぞれ障害者支援の分野で実績をあげていて、その活躍は広く知られている。タイ障害者支援における特定テーマ評価からも自明なように、日本の支援は質、量ともかなりのものとなり、大きな影響力をもっている。しかし広報力不足というか、日本人特有の消極さ故か、当事国ですらほんの一握りの関係者しかその働きをしらない。セミナーはJICAの実績を理解してもらうのにも格好の場となった。

今回のセミナーとワークショップを通して、JICAは障害者や障害分野の関係者にとって身近な存在となり、理想的な関係に近付きつつあると思う。アンケートでも希望が出ていたように、この種のセミナーは今後も機会があるごとに開催してほしい。アジア太平洋障害者センターの準備にも、セミナーの開催を通しての関係者の意見の調整など、必要な機会はいろいろあると思う。

また2年間にわたる特定テーマ評価と報告セミナーの開催という2つのプロジェクトで団員として御一緒した方たちは、障害部門の専門知識をも身に着け、素晴らしい働きをしてくれた。彼らの経験、知識がそのようなセミナーで今後も活かされて欲しいと思う。

2000年9月

団長・中西由起子

2. バンコクセミナー報告

<概要>

日時：2000年8月19日（土）

会場：アマリ・エイトリウム・ホテル（1880 New Petchburi Rd., Bangkapi, Huay Kwang, Bangkok）

プログラム：

- 10:00 ・司会者 Topong KULKHANCHIT 氏（DPI Thailand）によるセミナー説明
- 10:10 ・森本 勝 JICA タイ事務所所長によるスピーチ
- ・ Apinan PATIYANON 部長（External Cooperation Division 1, Department of Technical and Economic Cooperation）によるスピーチ
- 10:35 ・平知子（JICA 企画・評価部環境・女性課）によるプレゼンテーション「JICA's Philosophy and Programs to Support Persons with Disabilities」
- 11:00 ・駒澤牧子（株式会社設計計画）および大川直人（JICA 企画・評価部評価監理室）による報告「Report of the Thematic Evaluation Study on JICA's Support for Persons with Disabilities in Thailand」
- 12:30-13:40 昼食
- 11:40 ・中西山起子（アジアディスアビリティーズ・インスティテュート）によるプレゼンテーション「Current Situation to Support Persons with Disabilities in Asia」
- 14:30 ・アキイエ・ヘンリー・ニノミヤ（カナダ合同教会海外宣教部）によるプレゼンテーション「Future Consideration of Support System for Persons with Disabilities in Thailand」
- 15:10 グループ討論
- 議題：「Measures to Support Persons with Disabilities Especially in Rural Areas with Support Provided by GOs and NGOs Including Organizations of Disabled Persons」
- ・司会者よりグループ分けの発表
- ・参加者は指定されたグループのテーブルに席を移動
- ・事前に任命されていた各グループの代表者が説明
- ・討論
- ・グループ代表によるステージ上での討論内容の発表（5分ずつ）
- ・ニノミヤ副団長、中西団長による感想
- 17:40 閉会

参加者： 110名（男性47名/女性63名）

所属	人数	比率
NGO	36	33%
公共福祉局	10	9%
病院関係者	10	9%
JICA 関係者	9	8%
労災リハビリテーションセンター（IRC）	9	8%
特別教育校職員	8	7%
公共保健省	7	6%
技術経済協力局（DTEC）	6	5%
ホーム職員	6	5%
国連機関	3	3%
大学関係者	2	2%
その他	4	4%
合計	110	100%

<グループ討論概要>

ニノミヤ副団長がファシリテーターを務め、本評価結果で大きな課題として挙げられた「タイにおける地方の障害者に支援を届けるための方策」をテーマに、会場の出席者全員が5つのグループに分かれ、グループ討論を行った。セミナー参加団は、障害当事者とサービス提供者が一つの課題について一緒に議論することが障害者のエンパワーメントを進める上で非常に有効であるという認識に立ち、事前に参加者の所属を考慮し、各グループに均等に異なるバックグラウンドの参加者が配置されるようにグループ分けが決定された。

グループ討論参加者は合計74名（男性40名/女性34名）にのぼり、5つのグループに分けられた。（グループ1/15名、グループ2/22名（手話通訳付）、グループ3/10名、グループ4/13名、グループ5/14名）

ディスカッション後は各グループの代表者がステージ上で「地方の障害者に支援を届けるための方策」について発表を行った。発表内容をニノミヤ副団長が取りまとめた概要は以下のとおりである。（各グループから出されたレポートは巻末資料参照。）

「タイにおける地方の障害者に支援を届けるための方策」として多くのグループが提案したものは1. 情報のネットワーク化（バンコクと地方を結ぶ）、2. NGO 同士のネットワーク作り（特に障害当事者団体同士の連携の強化）、3. 青少年層の障害者の支援およびネットワーク作り、4. 地方の障害者の実態を知るための調査、5. 地方の障害者のリーダー育成、等である。この他にもタイにおける障害者を取り巻く大きな課題として、「偏見バリアー」があることがい

くつかのグループから指摘された。障害者を抱える家族内にも偏見があり、意識改革が進むことを望む声が少なからずあったことは特筆すべき点である。以上の発表内容の取りまとめから、障害者自身の権利意識をもっと高め、自立支援アプローチを推進することが重要と結論付けられた。

<アンケート結果概要>

セミナー終了後に回収されたアンケート数は 51 通で、回収率は 46%である。回答者 51 名のうち、障害者は 13 名、非障害者は 32 名、不明が 6 名である。アンケート結果の概要は以下のとおりである。（詳細については巻末資料参照。）

Q.1 セミナーに満足か？

非常に満足	12
満足	34
普通	4
不満	0
無回答	1
合計	51

満足・非常に満足を合わせると、約 90%の回答者がセミナーに満足したと回答。また、不満と答えた回答者がいないことからセミナーが成功したことが伺える。

Q.2 満足した部分（複数回答）

JICA's philosophy and programs	27
Report of the Thematic Evaluation	26
Current situation to support PWD in Asia	28
Future consideration of support system	35
Group discussion	19
None	0

バンコク会場での参加者は、政府機関や NGO 等の実際の障害者支援に携わるサービス提供者が多かったため、Future consideration of support system のプレゼンテーションへの関心が高かったと思われる。

Q.3 セミナーに関する支障（複数回答）

会場へのアクセス	3
通訳の理解	6
点字資料の不足	0

手話	5
なし	36
その他	2

手話に支障を感じた5人のうち、4人は手話通訳が1名では不足であることを指摘。2人はステージ上の照明のため、通訳を見るのが眩しかったことを指摘。手話通訳は当初2人を予定していたが、1人が急病のため欠席、やむなく一人で行うこととなった。

また、その他は「座席のアレンジ」と「ディスカッションの際のグループの人数の多さ」。

Q.4 セミナーから新しい考えを得たか？

得た	48
得られなかった	1
無回答	1
その他（両方）	1

その他の1名は得た点、得られなかった点の両方を挙げている。この1名を加えると、96%の回答者がセミナーから何らかの新しいアイデアを得ていることになる。

<まとめ>

政府機関、NGO、公的施設、障害者自助団体など、様々なバックグラウンドから多数の参加があり、非常にバランスのとれた参加者内訳となった。

グループディスカッションにおいてもこのバランスを生かすべく、参加者の割り振りが行われたが、手話通訳が1名であったため、聴覚障害者は一つのグループに集中する結果となった。各グループから NGO と政府機関の連携の重要性や、自立のための職業訓練の促進、村落管理組織やボランティアを利用した知識の普及などが提案された。このディスカッションが政府、民間関係者の意見交換の場となったことが期待される。

アンケート結果からは回答者の9割がセミナーに満足もしくは非常に満足しており、96%がセミナーから何らかの新しいアイデアを得ている。このことから、バンコクセミナーが開催の趣旨を達成したことが伺える。

3. パタヤセミナー報告

<概要>

日時：2000年8月20日（日）

場所：レデンプトール会センター

（レデンプトール会障害者職業学校内／ 440 Moo 9, Nongprua, Banglamung, Chonburi）

プログラム：

- 13:05 ・ 司会者 Duangdoaw YOTHASRI 氏（レデンプトール会障害者職業学校事務長）によるセミナー説明
- 13:15 ・ Supornum MONGKOLSAWADI 氏（レデンプトール会障害者職業学校校長）による挨拶
- ・ Pairat SUTTITHAMRONGSAWAT パタヤ市長によるスピーチ
- 13:30 ・ 平知子（JICA 企画・評価部環境・女性課）によるプレゼンテーション「JICA's Philosophy and Programs to Support Persons with Disabilities」
- 13:55 ・ 駒澤牧子（株式会社設計計画）および大川直人（JICA 企画・評価部評価監理室）による報告「Report of the Thematic Evaluation Study on JICA's Support for Persons with Disabilities in Thailand」
- 15:10 - 15:35 休憩
- 15:35 パネルディスカッション
- 議題：「Measures to Support Persons with Disabilities especially in Rural Areas」
- ファシリテーター：アキイエ・ヘンリー・ニノミヤ（カナダ合同教会海外宣教部）
- パネリスト：中西山起子（アジアディスアビリティ・インスティテュート）
- Supornum MONGKOLSAWADI 氏（レデンプトール会障害者職業学校校長）
- Prakij INTHISIT 氏（チョンブリ県障害者協会代表）
- Nantiya CHANTARASIRI 氏（チョンブリ県公共福祉事務所・女性障害者のための施設所長）
- 17:10 質疑応答
- 17:40 閉会

参加者： 86名（男性51名/女性35名）

所属	人数	比率
レデンプトール会障害者職業学校 生徒	47	55%
障害者自助団体	13	15%
JICA 関係者	8	9%
レデンプトール会障害者職業学校 教員	4	5%
県公共福祉事務所	2	2%
ホーム利用者	2	2%
マスコミ	2	2%
県公共保健事務所	1	1%
郡役場	1	1%
職業紹介センター	1	1%
大学	1	1%
特殊学校教員	1	1%
特殊学校生徒	1	1%
ホーム職員	1	1%
その他	1	1%
合計	86	100%

<パネルディスカッション/質疑応答の概要>

・パネルディスカッション

ニノミヤ副団長が進行役を務め、パネリストとして中西団長、Suporntum MONGKOLSAWADI 氏（レデンプトール会障害者職業学校校長）、Prakij INTHISIT 氏（チョンブリ県障害者協会代表）、Nantiya CHANTARASIRI 氏（チョンブリ県公共福祉事務所・女性障害者のための施設所長）の四人がそれぞれの立場から「地方の障害者支援の方策」について発言を行った。タイ側パネリストの意見としては、Suporntum 氏から障害者が自分の能力を自覚すること、周囲の理解の重要性が挙げられ、Prakij 氏からはボランティアおよび障害者のリーダーの育成が、Nantiya 氏からはコミュニティーの結束の強化が鍵となると指摘された。（詳細は巻末資料参照。）

・質疑応答

会場から三つの質問と一つの意見が出された。

—質問

「公共福祉局は、管轄の職業訓練校で訓練を受けた障害者に対してその後の仕事を保障することはできないのか。」

「日本での青少年の障害者に対する福祉の状況はどのようなのか。」

「タイでは聴覚障害者の就職が難しい。日本ではこのような問題はあるか。」

—意見

「タイの障害者も、自分自身で機会を作っていく、障害の種類に係らず協力しあって、権利を要求していくべきである。」

<アンケート結果概要>

学校側からの参加者への呼び掛け、および視覚障害者に対する補助の徹底により回収率は58%と高い。アンケート回答者50名のうち、障害者が36名と多く、残りは非障害者6名、不明8名となっている。結果の概要は以下の通りである。（詳細は巻末資料参照。）

Q.1 セミナーに満足か？

非常に満足	29
満足	20
普通	1
不満	0

Q.2 満足した部分（複数回答）

Opening address	4
JICA's philosophy and programs	44
Report of the Thematic Evaluation	31
Panel discussion	23
Questions and answers	18
None	0
その他（全て。知識がついた。）	1

JICA's philosophy and programs が回答数最多であったのは、バタヤ会場ではレデンブートル会障害者職業学校の生徒が参加者の半数以上を占め、JICA の役割を初めて知った者が多かったためと思われる。

Q.3 セミナーに関する支障（複数回答）

会場へのアクセス	3
通訳の理解	5
点字資料の不足	2

手話	0
なし	42

同時通訳に関しては事前の入念な打ち合わせの成果もあり、ほぼ問題がなかったものと思われる。一方、手話通訳に関してはパタヤ会場においても一名であったが、最後まで参加した聴覚障害者は1名であり、手話に関する支障の指摘はなかった。点字資料の不足は、視覚障害者の参加者がバンコクよりも多く、アンケートの際も補助者がすべての視覚障害者に付き、記入を補助したため視覚障害者のニーズが表れたことを示している。

Q.4 セミナーから新しい考えを得たか？

得た	50
得られなかった	0

パタヤでは100%の回答者がセミナーから何らかのアイデアを得ている。

<まとめ>

パタヤのレデンプトール会障害者職業学校で開催したことや、日曜日であったということもあり、参加者の6割がレデンプトール会障害者職業学校の関係者であった。そのため障害者の比率が高く、JICAの活動に対する関心も高かった。パネルディスカッションのパネリスト4人のうち3人が障害者であることや、質疑応答の際の質問者が全員障害者であったことなどからも、パタヤセミナーにおける障害者の参加度の高さが伺える。

また、学校側の協力によりアンケート回収率も良く、回答者の全員がセミナーから何らかの新しいアイデアを得たと答えている。

4. 関係機関との協議概要

・首相府技術経済協力局 (DTEC)

<日時>

8月18日 9:00~10:00

<参加者>

Mr. Apinan PATIYANON (Director, External Cooperation Division 1)

Mr. Banchong AMORNCHWIN (Chief, Japan Sub Division)

Ms. Hathaichanok SIRIWADAHNAKUL (Programme Officer, Japan Sub Division)

Mr. Keiichi TAKEDA (JICA Expert, Senior Advisor)

<協議内容>

ーバンチョン氏

JICA の援助は障害者分野に対して活発であり、今回の評価もとてもタイムリーなものであると考える。JICA の支援の中でも、DPI セミナーなどは効果的である。

ーアピナン氏

アジア太平洋センターの構想については、JICA の regional cooperation への積極的な取り組みを評価したい。しかし、タイ以外の他の国との役割分担が事前に明確に合意されなければ、タイは積極的に支援できない。JICA がセンター支援から離れたあとの10年、20年先を考えると、各国が責任を持って運営に参加するようなシステムが先に構築されなければ持続性が懸念される。JICA にはコーディネーター役をうまく務めることが期待される。関連国の背景がそれぞれ異なるため、ニーズも異なり、政治的な軋轢もあるため、センターおよび JICA は仲介者としてネットワークづくりに力を入れなければならない。

日本の JICA もタイを中心としたネットワークづくりのみでなく、東京を中心とした世界との協力ネットワーク作りが大事ではないか。

・労働社会福祉省公共福祉局障害者リハビリテーション委員会事務局

<日時>

8月18日 10:30~11:30

<参加者>

Mr. Opas PIMOLVICHAYAKIT (Chief, Project and Planning Section)

Ms. Saranpat ANUMATRAJKIJ (Chief of the Committee Secretariat)

Ms. Teppawan PORNAWALAI (Public Relations)

<協議内容>

—オーバス氏

地方の障害者への支援拡大については、リハビリテーション委員会は各県に小委員会をもち、県内の障害者の声を汲み取る役割を果たしている。また、小委員会には3名の障害者の委員が参加することが定められており、障害者の参加も考慮されている。この小委員会が地方へ中央と同じレベルのサービスを届ける役目を担って欲しいと考えている。また、地方の障害者支援の第一歩は障害者を家の外へ連れ出し、サービスへアクセスさせることであると考えており、これらの小委員会制度をそのための方策の一つとして位置付けている。

一方、各村落の福祉センター職員は自分の判断で村内に何人の障害者がいるか把握しているが、それらが中央で一括して掌握されるようなシステムにはなっていない。従って、全国の障害者数は各省庁の推計に頼っており、保健省では400万人、統計局では100万人としており、詳細は把握されていない。

地方の障害者の職業的自立を促すために有効なマイクロビジネスのような自営支援の包括的なプロジェクトは行っていないが、事業を始めたい障害者に20,000バーツまでの無利子の資金貸し付けのサービスは行っている。また、リハビリ委員会はFAOの茸栽培プロジェクトと連携もしている。

<報告書に関するコメント>

3-3 障害者施設の概況について

- ・このような評価を調査団の調査期間2週間あまりでできるのは疑問である。もっと長期的な調査を行わない限り、施設のパフォーマンスを評価することは難しいはずである。

3-4 障害者支援対策の総括

(2) 今後の障害者支援対策を進める上での三つの基本観点について

- ・「①障害者当事者の参加の促進」については、政府も、リハビリテーション委員会の中に障害者の委員の枠を設けたり、県のリハビリテーション小委員会にも三人の障害者を含むことを義務付けたりと、障害者の参加に取り組んでいる。
- ・「②地方における障害者支援の強化」についても、医療や教育、職業訓練等のサービス提供の面で政府はネットワークを築き、地方へのサービス拡大に努めている。NGOと政府が協力するのも重要だが、障害者自助団体がもっと強くなる必要があるだろう。
- ・「③市民及び障害者関連職員の障害者に対する理解の促進」も、政府の施設の職員に対してトレーニングを実施し、特に人権教育を促進しているし、NGOとの共同事業も既に実施している。

・アジア・太平洋経済社会委員会 (ESCAP)

<日時>

8月18日 13:30~15:00

<参加者>

Ms. Keiko MIZUTA (Deputy Executive Secretary)

Ms. San YULINWAH (Disadvantaged Groups Section, Social Development Division)

<協議内容>

—サン氏

この評価を実施したことは価値がある。JICAの7 Global Issuesに障害者支援が含まれていることも評価したい。

この報告書は、障害者支援に興味のある者にとって情報価値がある。対外的に出版するものとしても価値があるのではないかと思う。できれば報告書内の提言は、JICAへの提言、タイ政府への提言、NGOへの提言、国際機関への提言というように分けた方がより良いだろう。次の評価の改善につなげるための提言としては、本報告書では障害者の自助団体として、DPIが中心に取り上げられているが、聴覚障害者協会（既にタイDPIのメンバー）といった他の自助団体も取り上げることができれば、充実するであろう。

一方、3月に行われたESCAPが実施主体となったJICAの第三国研修が調査後に実施されたため、報告書内で触れられていないことも惜まれる。研修生に関しては、研修終了者同志の帰国後のネットワーク作り、自分の持ち場に帰って学んだことを活用するためのサポートなどのフォローアップが大切である。さらに、研修生からのフィードバックがもっとあっても良いのではないか。彼等に研修の報告書を書かせることを義務付け、研修前と後で何が変わったのかを分析するなど、JICAが研修生に関する情報のストックを強化することも大事である。

（サン氏には、報告書内の国連機関や障害者支援に関する専門用語の使用に関して、多大なアドバイスを頂いた。）

—水田氏

報告書内に、タイの政府機関やNGOなどの障害者関連機関の名前をリストにして添付すれば、より親切である。また、第三国研修は非常に有意義なものなので、今後も続けてほしい。研修を受けた者が、実地に戻ってから研修で学んだ内容を行かせるようなJICAや派遣専門家によるサポート体制を作ることも望まれる。

＜巻末資料＞

- ・ セミナー参加団構成・日程
- ・ セミナー発表原稿および OHP 原稿
- ・ セミナー配付資料一覧
- ・ バンコクセミナー
 - ・ Kanitta TEVINTARAPUKTI 氏（公共福祉局）の CBR 論文抄訳
 - ・ グループ討論レポート
 - ・ アンケート結果 詳細
- ・ パタヤセミナー
 - ・ パネルディスカッションの詳細
 - ・ 質疑応答内容
 - ・ アンケート結果 詳細
- ・ ニノミヤ副団長による調査報告（チェンマイ県における障害者支援）

セミナー参加団構成・日程

参加団構成

	氏名	担当	所属	期間
1	中西 由起子	団長	アジア・ディスアビリティ・インスティテュート代表	2000年 8月16日～22日
2	アキイエ・ヘンリー・ニノミヤ	副団長	カナダ合同教会海外宣教部社会福祉専門担当（元関西学院大学総合政策学部教授）	8月16日～25日
3	大川 直人	評価結果発表（1）	JICA 企画・評価部評価監理室室長代理	8月16日～22日
4	平 知子	障害者支援発表	JICA 企画・評価部環境女性課	8月16日～22日
5	駒澤 牧子	評価結果発表（2）	コンサルタント（株）設計計画	8月16日～22日
6	関 明水	セミナー開催補助	コンサルタント IC Net Thailand Co., Ltd.	8月3日～31日

日程

月 日	時間	訪問先	主要面談者
8月16日 (水)	15:30 18:00	成田発 バンコク着 (TG641) 宿舎着 (グランド・バシフィック・ホテル) セミナー会場 (アマリ・エイトリウム・ホテル) 視察	
17日 (木)	09:30 10:30 13:00 18:00 19:30	JICA 事務所打ち合わせ 司会者/受付との打ち合わせ セミナー開催準備 英タイ通訳/手話通訳との打ち合わせ 森本 JICA タイ事務所所長主催夕食会	梅崎 JICA タイ事務所次長 在タイ日本大使館岩井一等書記官 森本 JICA タイ事務所所長
18日 (金)	09:00	首相府技術経済協力局 (DTEC) 表敬訪問	アビナン部長 (海外協力第一部) バンチョン課長 (日本課) 武田 JICA 専門家

	10:30	障害者リハビリテーション委員会事務局表敬訪問	オーパス課長 (企画計画課) サランバット課長 (委員会秘書課) デーパワン氏 (広報)
	13:30	アジア・太平洋経済社会委員会 (ESCAP)表敬訪問	水田次長 サン氏 (社会開発部門)
	16:00	アジア太平洋障害者センター (仮称) 設置候補地視察 バトムタニ県	
	17:00	ノンタブリ県 (バクレット地区)	
19日 (土)	09:30 10:00 -17:30	グループ討論リーダーとの打ち合わせ セミナー開催	
20日 (日)	08:00 10:00 13:00 -17:30	グラント・パシフィック・ホテル発 バタヤへ レデンプトール会障害者職業学校着 セミナー開催	
21日 (月)	09:00 09:30 16:30	レデンプトール会障害者職業学校発 バンコクへ ・アジア太平洋障害者センター (仮称) 設置候補地視察 チョンブリ県 (バンラモン地区) ・チョンブリ県女性障害者施設訪問 (平・駒澤団員)	森本 JICA タイ事務所所長
22日 (火)	10:50	バンコク発 成田へ (TG640)	

ニノミヤ副団長は8月22日から24日までチェンマイにて調査を行い、25日に帰国。

セミナー発表原稿および OHP 原稿
(発表順)

平 知子 (和文 OHP 原稿)

駒澤 牧子 (和文 OHP 原稿)

大川 直人 (和文 OHP 原稿)

中西 由起子 (英文 OHP 原稿)

ニノミヤ・アキイエ・ヘンリー (英文 OHP 原稿)

和文 OHP 原稿については発表の際、タイ語に翻訳したものを使用。

SEMINAR ON
SUPPORT FOR PERSONS WITH DISABILITIES IN THAILAND; REPORT OF JICA'S
THEMATIC EVALUATION

Tomoko Taira
Global Issues Division, Planning and Evaluation Department
Japan International Cooperation Agency (JICA)

Amari Atrium Hotel
Bangkok, 19 August 2000

=====
Ladies and Gentleman,

It is a great honor for me to have this opportunity to talk to you about JICA's effort in the field of disability at this seminar today. I'd like to introduce to you JICA's past activities in international cooperation, and the directions that our cooperation will take in the future.

(1. JICA's Technical Cooperation)

First of all, I would like to briefly explain JICA's international cooperation. Table 1 shows the typical types of cooperation being implemented by JICA. This cooperation can be classified into many types, of which the following eight are representative in the field of disability: technical training programs, dispatch of experts, project-type technical cooperation, dispatch of Japan Overseas Cooperation Volunteers, development study, support for grant aid, the community empowerment program, and project formulation study.

(① Acceptance of trainees)

The first major type of cooperation is the acceptance of trainees. As you can see in table 2, which shows the number of trainees accepted in eleven (11) group-training courses held in certain number of Japan in the field of disability up to FY1999, JICA has accepted trainees from Thailand, Asia and the Pacific region, and all over the world. This total number (866) of Table 2 is a total number of trainees in 11 group courses. A total number of trainees including group training, individual training, and the third country training is 1330 since 1980.

This yellow leaflet shows the title of the eleven (11) group-training courses being offered in Japan at present.

JICA has been providing support for the holding of seminars in developing countries on welfare for PWD as part of third-country training. Under the third-country training scheme, participants from neighboring countries are invited to training in a host country that has been selected because it has natural, social, and cultural features that are representative of the region. A new third-country training course entitled "Training in Creating a Friendly Urban Environment for the Disabled and the Elderly in Asia and the Pacific" was held at ESCAP here in Thailand last year.

Formerly the group training courses targeted case workers and administrative officers providing assistance to disabled persons, but in recent years courses for disabled persons themselves have been established, and at present, JICA offers three (3) training courses whose target groups are disabled persons themselves. Specifically, these courses are "the Leaders of PWD course", "Instructors' Training in Esophageal Vocalization", and "Leadership Training of Asian and Oceanian Deaf Persons".

Based on this situation, JICA's Tokyo International Training Center, which accepts trainees with disabilities on a regular basis, has checked its facilities to see that they are accessible to such trainees. As a result of this inspection, braille tiles for persons with visual disabilities have been installed in hallways and other areas in its residence facilities.

<OHP-photos>

- 1> The photo gives you an idea of what the training courses are like. This shows trainees of the "leaders of PWD" course in class.
- 2> This also shows trainees of the "leaders of PWD" course during a visit to a vocational training center for PWD.
- 3> Last year, participants in the training course visited the National Sports Competition for PWD held in Kumamoto city and got together with the players. Each training course program includes a small trip in Japan to learn Japanese culture, and last year participants visited Kumamoto castle. They also experienced a weekend home-stay with a Japanese family.

(2) Dispatch of experts)

The next scheme is dispatch of experts. As can be seen in Table 3, during the 20-year period from 1980 until last year, a total of 76 short-term and long-term experts were dispatched. Some of these experts have disabilities themselves, and most of them were dispatched on a short-term basis.

At the past, these experts were dispatched to Thailand to work in such fields as "manufacture of artificial limbs", "handicapped access to public facilities", and "vocational rehabilitation", or as "lecturers for third-country training".

In the case of Laos, trainees who had participated in the JICA training course "Leaders of PWD" established the Laos Society for Persons with Disabilities in 1996, and the society held a seminar for training of leaders for PWD. At this time, JICA sent three (3) experts who have disabilities to work as lecturers and technical guides.

(3) Project-type technical cooperation)

The 3rd scheme is project-type technical cooperation. This cooperation includes training programs in Japan, dispatch of experts, and provision of equipment. JICA implements this program as a comprehensive approach to promote technology transfer. In the field of disability, JICA has been implementing six (6) projects since 1984 and two (2) of these are now on going in Indonesia and Chile, as you see in Table 4. Most of these projects were implemented in conjunction with the construction of rehabilitation facilities and provision of equipment through grant-aid.

In Thailand, the Industrial Rehabilitation Center Project was implemented from 1984 to 1991 and again from 1996 to 1997 as an aftercare program. The purpose of the project was to support the independent living of PWD by providing vocational training and medical rehabilitation, and by carrying out a related survey.

1> This photo shows activities of the Project for the National Vocational Rehabilitation Center for Disabled People in Indonesia. The project provides vocational rehabilitation programs in Computers, Machine Sawing, Metal Work, Small Engines, Printing, and Electronics. These photos show training in Machine Sawing and Metal Work.

2> This shows training in Computers, Printing, and Small Engines.

3> This shows training in Electronics, Sawing, and the members of the center.

(4) Dispatch of Japan Overseas Cooperation Volunteers)

The 4th scheme is dispatch of Japan Overseas Cooperation Volunteers, which

are commonly called JOCV. The JOCV program sends volunteers with specific skills, who are between 20-39 years old, to assist in the socio-economic development of local communities. As you can see in Table 5, a total of 440 JOCVs concerned with disabled persons have been dispatched as of FY1999. A look at their occupations indicates that most of those dispatched have been nurse-teachers involved in the education and care of disabled children, or physical and occupational therapists attached to facilities for PWD. However, in recent years JOCV working in the fields of prosthetics and orthotics have also been dispatched.

At present, three (3) JOCVs in the field of physical therapy and four (4) JOCVs in the field of nursing of disabled people are working here in Thailand. If there are any JOCVs attending today, please stand up.

(5)Development Study)

The 5th scheme is development study. JICA implemented a development study in the field of public transportation considering persons with disabilities in Malaysia last year. In this study, a plan for a transportation system was formulated that recognizes the perspective of those with disabilities by local consultants, including an expert with a physical disability.

- 1>This shows a workshop of the development study to identify the various barriers to PWD in the city of Kuala Lumpur.
- 2> One problem was grid covers of sewers. As you can see, this is an obvious obstacle for wheelchairs.
- 3> Another problem is dirt roads. They obstruct the paths of people with visual disabilities as well as people using wheelchairs.
- 4> This shows a slope in the city. As you can see, it is too steep for a person using a wheelchair to pass through by himself.

(6)Community Empowerment Program)

The 6th scheme is the Community Empowerment Program. This is a relatively new scheme, which started in 1997. Table 6 shows 4 projects in the field of disability, and 2 of which are being implemented in Thailand. The program is aiming to directly benefit people at the grassroots level in developing countries for the improvement of their livelihood and welfare. Under this scheme, a model program, with the endorsement of the recipient government, will be implemented by JICA together with NGOs which play an important role in implementing projects at the grassroots level.

Anyone who is interested in this program may obtain copies of the leaflet of this program at (the information desk?).

1> These are photos of a project in Cambodia. The activities of the project are technical training, advocacy, counseling services, survey, and seminar in the field of mental care. These photos show staff training for group counseling, group counseling for persons with alcohol-dependency, and individual counseling at home by a social worker.

(⑦Support for Grant-aid)

The 7th scheme is support for grant aid. The next OHP shows a list of Japanese grant-aid projects in this field. All of them involved the construction of facilities and/or provision of equipment for persons with disabilities. Five (5) of these projects were carried out with project-type technical cooperation.

So far I have talked about JICA's past cooperation in the field of disability. Now I would like to briefly explain JICA's change of approach toward cooperation in this field since the International Year of the Disabled in 1981.

(2. JICA's Philosophy to support PWD)

(①The Study on the Participation of Japanese Disabled People in International Cooperation Programs)

As a part of the worldwide trend to promote the interests of disabled people in recent years, JICA initiated a study on the participation of Japanese disabled people in international cooperation programs in 1995-1996. Its objectives are exploring ways to call attention to the needs of disabled people, and encouraging their participation in international cooperation, particularly Japan's ODA.

Furthermore, in the latter half of the Asian and Pacific Decade of Disabled Persons, JICA decided to take practical steps to follow up the recommendations of the study. One of these steps was to send a mission of the project formulation study to Thailand and Indonesia to formulate a pilot project in the field of disability in the Asia and Pacific region. As a result of the mission survey, an idea for establishing an activity center for the PWD in the Asia and Pacific region is now under consideration in Thailand. The center is to be utilized for technical development and capacity building, while also serving as an information center.

(②ThematicEvaluation Study on JICA's Support for PWD in Thailand)

Another step was this thematic evaluation in the field of disability, which was conducted last year in Thailand. This was the first time JICA had conducted this type of evaluation in its history. The results and recommendations of this study will be fed back for future JICA cooperation in this field.

(③Advisory Committee meeting for Issue-specific support)

In addition, two weeks ago, JICA held the 1st advisory committee meeting for Issue-specific support in the disabilities field. Ms. Nakanishi is one of the committee members. The committee is responsible for giving valuable advice to JICA from experts' point of view. JICA has also established other issue-specific committees in such fields as poverty reduction and gender.

(3. Conclusion)

To conclude, JICA has been discussing its cooperation policy in the field of disability for a couple of years. This policy focuses on "Full participation and equal opportunities" and enhances the importance of JICA's cooperation not only for supporters of PWD but also PWD themselves. We believe that it is very important for PWD themselves to use their own experiences and participating in actual cooperation projects in the field.

Moreover, JICA will work to strengthen its partnership with NGOs and other organizations that have vast experience in the disabilities field, because strategic implementation and expansion of projects that empower PWD are essential for supporting PWD in developing countries. Even in projects that do not directly target PWD, JICA is considering ways to ensure that participation of them is not overlooked.

Finally, I would like to mention that anyone who is interested in JICA's support in this field should contact Japan sub-division of Department 1, DETEC to obtain detailed information. JICA also has a homepage, the address of which is on the back page of the leaflet. I ask all of you to access this site to get more information about JICA for further cooperation.

Thank you for your attention.

(END)

Table 1. JICA's Technical Cooperation

- (1) Technical Training Program**
- (2) Dispatch of Experts**
- (3) Project-type Technical Cooperation**
- (4) Dispatch of Japan Overseas Cooperation Volunteers
(JOCV)**
- (5) Development Study**
- (6) Community Empowerment Program**
- (7) Support for Grant Aid**
- (8) Project Formulation Study**
- (9) Others**

Table 2. Technical Training Program in the Field of Disability (~FY99)

Course Title	Year	World	Asia	Thai.	%
Intellectual disability	1980	165	112	21	13%
Prosthetic and orthotic technicians	1981	90	70	13	14%
Rehabilitation of PWD	1983	170	150	21	12%
Leaders of PWD	1986	132	117	13	10%
Sports instructors for physically disabled persons	1990	99	60	9	9%
Seminar for senior officers in mental health care	1992	57	54	8	14%
Instructors' training in esophageal vocalization	1994	37	37	7	19%
Leadership training of Asian and Oceanian deaf persons	1995	39	39	7	18%
Technical aid for visually disabled persons	1995	41	41	5	12%
Technology for the support of independent living of PWD	1997	21	19	3	14%
Supplementary training course for medical rehabilitation professionals	1998	15	15	4	27%
Total		866	714	111	13%

Table 3. Dispatch of Experts in the Field of Disability (~FY99)

	World	Asia	Thai.	%
Short-term Experts (< 1-year)	62	40	10	16%
Long-term Experts (> 1-year)	14	13	4	28%

[Fields of Experts dispatched to Thailand (examples)]

- * Manufacture of Artificial Limbs
 - * Handicapped Access to Public Facilities
 - * Vocational Rehabilitation
 - * Lecturer for third-country training (DPI seminar)
- etc.

Table 4. Project-type Technical Cooperation Projects

Country	Project title	Coop. Period
Peru	Project for Development of Community Mental Health Service	1980-1987
Thailand	Industrial Rehabilitation Center	1984-1992 1996-1997
China	Rehabilitation Research Center for the Physically Disabled	1986-1993
Indonesia	Project for Development of Vocational Rehabilitation System in the National Rehabilitation Center for Physically Disabled People.	1994-1997
Indonesia	Project for the National Vocational Rehabilitation Center for Disabled People	1997-2002
Chile	Rehabilitation of the Disabled People Project	2000-2005

Table 5. Japan Overseas Cooperation Volunteers <JOCV> (~FY99)

Occupation	World	Asia	Thai.	%
Nurse-teacher of Disabled People	219	82	12	5%
Physical Therapy	112	51	6	5%
Occupational Therapy	76	30	1	1%
Employment Promotion of Disabled People	17	15	0	0%
Prosthetics and Orthopedics	9	1	1	11%
Therapeutic Language	4	1	0	0%
Social Worker	3	0	0	0%
Total	440	180	20	5%

Table 6. Community Empowerment Program

Country	Period	Project Title	Activities	NGO
Cambodia	1998.12-2001.12	Model Health and Social Service Centers in Cambodia	Technical Training / Advocacy / Counseling Services / Survey / Seminar	Social Service of Cambodia (SSC)
Viet Nam	1999.1-2002.5	General Welfare Supporting Project of Children in Hue City, Viet Nam	Technical Training / Survey / Surgical Operation / Rehabilitation	The Japanese Assoc. of Supporting Vietnamese Street Children's Home (JASS)
Thailand	1998.11-1999.3	Community-based Rehabilitation for Young Handicapped	CBR Seminar / Camp for Children with Disabilities	Foundation for Handicapped Children
Thailand	2000.1-2000.3	Information Network for People with Disabilities	Database Set-up / Development of Web-site / Preparation for Training of Leaders	The Council of Disabled People of Thailand (DPI-Thailand)

Table 7. Grant Aid Projects in the Field of Disability (~FY99)

Year	Country	Project Title	(million yen)	Project Summary
1980	Peru	Establishment of the Community Mental Health Center	2,200	(Construction of the facility)
1983	Thailand	Establishment of the Industrial Rehabilitation Center	1,090	(Construction of the facility)
1985 1986	China	Establishment of the Rehabilitation Research Centre for the Physically Disabled	3,380	(Provision of equipment)
1989	Indonesia	Project for the Improvement of the Equipment for the Mobile Rehabilitation Unit Services	220	(Provision of equipment)
1995 1997	Indonesia	Project for Construction of the National Vocational Rehabilitation Center for Disabled People	1,655	(Construction of the facility)
1996	El Salvador	Project for Improvement of Equipment of Centers for the Disabled	344	(Provision of equipment)
1998	Syria	Project for Improvement of Equipment for Vocational Training for People with Disabilities	257	(Provision of equipment)

Note: Does not include Grant Assistance for Grassroots Projects

Report on the Thematic Evaluation Project on
JICA's Support for Persons with Disabilities in Thailand

Makiko Komasaawa
Sekkei Keikaku Architect. Inc.

This is to introduce the outline of the thematic evaluation done by the JICA mission team last August and to briefly describe the findings of the current conditions of as well as issues for support programs for persons with disabilities in Thailand.

I. Outline of the evaluation mission

(1) Purpose

The general purpose of the evaluation was to conduct a comprehensive review of the cooperative project carried out by JICA in the field of support for persons with disabilities, and to reflect upon the result of the review in the future JICA policy for cooperative projects in similar areas. This was the first comprehensive evaluation for JICA in this field.

(2) Background

The International Year of Disabled Persons in 1981 was succeeded by the Asian and Pacific Decade of Disabled Persons beginning in 1993 through 2002 and they have increased the international awareness of the needs to strengthen supports for the realization of full participation and equality of persons with disabilities. In accordance with such international trends, Japanese Government has become more involved in programs supporting in the field of persons with disabilities.

In order for JICA to strengthen its programs to support the realization of full participation and equality of persons with disabilities, it is necessary to reorganize its programs based on the past experiences. However, JICA has not carried out the thorough evaluation of the programs in the field of support to persons with disabilities and thus this Thematic Evaluation was to be conducted. It was considered quite meaningful and timely to make such comprehensive evaluation to draw out proposals and to provide feed back for the future projects.

Thailand has been chosen as the first case study for the following three reasons 1) Thailand has already have some experiences in carrying out cooperative projects with Japan, 2) Thailand has been expected to play an important role in the Asia and Pacific region in the field of support for persons

with disabilities, and 3) it has been expected that cooperative projects will be further developed in the near future in Thailand.

(3) Period and members of evaluation team

The evaluation team stayed in Thailand from August 11- 28, 1999. The evaluation team had 6 people; Ms. Yukiko Nakanishi, the President of Asia Disability Institute, and the leader of the evaluation team. Deputy Leader was then-Prof. Akiie Henry Ninomiya from the School of Policy Studies, Kansei Gakuin University who has recently gone back to Canada. Other members were, from JICA, Mr. Naoto Okawa, Deputy Director for Office of Evaluation and Post-project Monitoring and Ms. Mari Furukawa, Associate Specialist, Indo-china Division. Also, two consultants were among the members, Ms. Yuriko Saito and myself.

(4) Characteristics of the evaluation project

Besides the fact that this was the first comprehensive evaluation on programs concerning the support for persons with disabilities, there were three characteristics to be noted. They were:

a) Firstly, the Evaluation project considered the viewpoint of persons with disabilities important and thus tried to incorporate their opinions and voices as much as possible. In the past, in many cases, cooperative programs and various types of researches in the field of support for persons with disabilities, people without disabilities, the provider of the services were taking initiatives in planning and practice and the service recipients' view point were not well incorporated. Therefore, in addition to the fact that the projects' leader was a person with disability who had a long international experiences in the field, the project tried to have direct communication with persons with disabilities by conducting interviews and to distribute questionnaires with more than 200 persons with disabilities in Thailand.

b) Secondly, the NGO was included as subject of the project. In Thailand, there have been many significant NGOs which have been providing needs oriented services to persons with disabilities with efficiency. To explore the possible future partnerships in future cooperation projects the team incorporated the meetings with NGOs in the evaluation project. Also, the deputy leader of the team was an academic studying the international NGOs.

c) Thirdly, in order to have as much direct and reality-based response from persons with disabilities, hearings and questionnaires were conducted/made in Thai language.

II. Framework for the evaluation Project

Since the ultimate goal of the cooperative project for the support of persons with disabilities is the realization of their full participation and equality in society, the evaluation team had listed the following three issues as the objectives of this evaluation project: 1) To understand the current situations of persons with disabilities, 2) to understand the current measures for support of disabled persons, and 3) to evaluate the performance of the past JICA cooperation projects.

(1) Current situation;

Information was collected by statistical data and through questionnaires to persons with disabilities. The issues for realizing the full participation and equality were listed up using such information.

In conducting research in questionnaires, DPI-Thailand was a great help to the team and I would like to acknowledge and thank their significant contribution at this point.

(2) Current measures;

To collect information on policies and measures, as well as to understand its international trends to plan the future direction of assistance programs, visits were made to Thai government, public institutions, NGOs, ESCAP and other institutions.

(3) Evaluation of the past JICA programs;

JICA has been conducting in Thailand, a) project-type technical cooperation, 2) grant-aid projects, 3) dispatching experts, Senior Volunteers and Japan Overseas Cooperation Volunteers, 4) technical training, and 5) community empowerment program in the field of support for persons with disabilities. Also, the Foreign Ministry has been providing the grant-aid for grass-root projects.

(4) Subject of the evaluation project

For this Evaluation project, the past JICA projects which has been regarded as the integral part of the JICA cooperation program were selected.

a) Industrial Rehabilitation Center-IRC was the combination of the project type technical cooperation and grant-aid projects. Based on the 5 basic evaluation items laid out in the JPCM (JICA Project Cycle Management) system, 1) efficiency, 2) effectiveness, 3) impact, 4) relevance, and 5) sustainability were evaluated through hearings from IRC staff members, on-site visits, questionnaire and face-to-face hearings from ex-trainees, and hearings from on-going trainees.

b) At the time of evaluation, 17 experts and 2 senior volunteers were dispatched to Thailand. Questionnaires were sent to organizations where those experts and senior volunteers, 10 of them, were dispatched and have completed their term of services, to ask about their performances and achievement, etc. In addition, opinion exchange meetings with those experts and volunteers who were still in service at the time of our visit were conducted.

c) Technical training has been provided to 77 trainees from Thailand.

On site hearings from ex-trainees and opinion exchange meetings with them were carried out. Also, questionnaires were sent out to related organizations and people involved.

With these efforts, the evaluation team has accumulated various types of information to understand the current situation of persons with disabilities and the policy and measures for such people. Based on those information, JICA's cooperation projects in Thailand in the field of support of persons with disabilities were evaluated with the emphasis on contributing factors for the realization for their full participation and equality.

And using these findings, future direction of the cooperation policy, and learning and proposals for future planning and practice have been drawn up.

III. Current situation of persons with disabilities in Thailand

Let me introduce some of the findings.

(1) Demography

As to the demography of persons with disabilities, data collection in Thailand has not been well-standardized and the data on persons with disabilities living in local areas have not been well-gathered. Also, different ministries and agencies have been using different data from different sources.

The Rehabilitation Committee of the Public Welfare Bureau, Labor and Social Welfare Ministry, which coordinates the policies and services for persons with disabilities were using the data processed at the National Health Fund of the Ministry of Health. The data showed that there were 4,825,681 persons with disabilities in Thailand in 1996, consisting 8.1% of the whole population.

Looking at the age group, over 60 years old consisted about 20 %,

showing the aging of persons with disabilities. (Please refer the Table2-1)

Table 1 Number of persons with disabilities by age group

(In thousands of persons)

	10 or below	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60 or over	Total
Population of disabled persons	103.3 9.4%	190.1 17.3%	218.6 19.8%	158.0 14.3%	107.1 9.7%	104.0 9.4%	220.2 20.0%	1,101.3 100.0%
Total population	13,754.5 24.1%	11,140.3 19.5%	11,371.1 19.9%	8,320.1 14.6%	5,209.8 9.1	3,729.4 6.5%	3,521.2 6.2%	57,046.41 100.0%

Source: "Report of the Health and Welfare Survey 1991" by the National Statistical Office

As to the types of disabilities, the National Health Fund's data showed that more than half were with physical disabilities and the next largest group was the visually impaired people, some 20 %. With these two categories, almost three quarters of the disability population were occupied.

In most developed countries, the trend is that people with mental disabilities and internal disabilities, such as kidney problems and respiratory problems, occupy the larger portion of disability population.

In Thai, the percentage occupied by such types of disabilities were still quite low. It might be attributable to the fact that people's concept of disabilities have yet been limited to visible types of disabilities. As the understanding concerning the definition of the disabilities improves, the number of disability population may increase, as well as the demographic distribution by categories of disabilities may be come a pattern similar to that of developed countries.

2) Issues surrounding persons with disabilities

The Evaluation team distributed questionnaires concerning the lives of persons with disabilities to some 680 people and among the returned paper, 133 answers, some 20 %, were possible to process as our data.

Most of the people whose answers could be used were people who are highly educated, and have more opportunities for the job and/or vocational training as well as social participation. Their degree of independence in their daily lives were rather high and their answers showed the active involvement in the society.

Yet, their most serious concerns was about the financial independence and they are eagerly wishing to secure places to work, as are shown in Table 2 4 and 2-5.

Table 2 What is the most serious issue that concerns you now

	Number of persons	Percentage (%)
Issues related to income, finances	33	24.8
Issues related to a lack of support to disabled persons	32	24.1
Issues related to work	21	15.8
None	10	7.5
Issues related to living	9	6.8
Issues related to studies	3	2.3
Other (human relationships)	13	9.8
No answer	21	15.8
Total	142	106.8

Table 3 What would you like to do in your life in the future

	Number of persons	Percentage (%)
Something related to job other than self-employment, vocational training	52	39.1
Something related to support to disabled persons	25	18.8
Something related to self-employment	23	17.3
Something related to living, family	16	12.0
Something related to education, academic qualifications	10	7.5
Other	20	15.0
No answer	12	9.0
Total	158	118.8

Answers also showed their strong interest and involvement in the activities supporting other persons with disabilities, such as counseling, friendly visit and other types of support activities. It was quite obvious that persons with disabilities in Thailand have been very much motivated in self realization and social participation and they themselves could be important human resources in advancing the empowerment of persons with disabilities in general.

IV. Measures in Thailand

(1) General policy and measures taken in Thailand concerning the persons with disabilities have been in accordance with the international trend. The basic law for persons with disabilities is the Rehabilitation of Disabled Persons Act and there are other legal measures. At the national level, a certain degree of personnel, facilitative and financial resources have been deployed. Some of the advanced facilities supporting persons with disabilities have been regarded as role models and contributing in upgrading the general standard of services. Also at the national level, NGOs led by persons with disabilities themselves have been very active in providing flexible and need-oriented services, playing integral part of service provision. Their performances have been quite prominent in

the Indo-china area and it has been expected that they would provide good influence toward the neighboring countries in their development process of support for persons with disabilities.

Major Interests of persons with disabilities in Thailand were the job security and support activities for persons with disabilities, with the goal of financial independence and self-realization. For that goals, it has been required to develop measures such as creation of job opportunities, development of barrier-free environment, including accessibility, enlightenment programs for employers and people in the society in general, and financial support to self-help organizations, etc.

The Thai government has already announced that quantitative development of rehabilitation programs including the aspects of medicine and education, further development of vocational training and the creation of job opportunities toward the financial independence, and improvement of accessibility of public transportation systems and various public facilities as their major goals for the support of persons with disabilities to meeting the needs and request of persons with disabilities.

2) Three major issues which Thai Government should take into consideration

Based on the information obtained and data collected, as well as from the hearings and answers to questionnaires etc., the Evaluation Team has concluded that the following three issues should be taken into consideration when the Thai government is to further develop and deploy support measures for persons with disabilities with their viewpoint and with efficiency.

a) Firstly, it is important that public institutions as well as NGOs should facilitate the participation of persons with disabilities themselves in planning as well as the practice stages for the realization of service provision with high quality.

b) Secondly, the support to persons with disabilities in local areas should be strengthened by allocating personnel, facilitative and financial resources rather extensively.

At the same time, it should be noted that in order to provide services with high quality, the partnership with NGO's and self-help organizations would be essential.

c) Thirdly, enlightenment of general public as well as staff members involved in services for persons with disabilities would be very important. Even though the level of understanding have been improved through the enactment of new Constitution, various types of activities by self-help organizations, and the FESPIC Games, still further efforts should be made to have better understanding about the persons with disabilities.

平成 11 年度 特定テーマ評価
タイ障害者支援 報告

1. 評価の概要
2. 評価のフレームワーク
3. 障害者の現状
4. 障害者対策の現状等

本特定テーマ評価の特徴

○JICAにおける障害者分野での初めて総合的な評価

- 1) 障害者の視点を重視したこと
- 2) NGOも調査対象としたこと
- 3) タイ語で調査を行ったこと

評価のフレームワーク

- 1) 障害者の現状
- 2) 障害者対策の現状
- 3) JICA の協力実績の評価
 - ・ 労災リハビリテーションセンター
 - ・ 青年海外協力隊・シニアボランティア
 - ・ 研修員受入

→ 「障害者の社会への完全参加と平等」の観点から、JICA 協力を総括的に評価した。
- 4) 今後の JICA の協力への教訓・提言

表1 年齢階級別障害者数

(単位：千人)

	10歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
障害者人口	103.3 9.4%	190.1 17.3%	218.6 19.8%	158.0 14.3%	107.1 9.7%	104.0 9.4%	220.2 20.0%	1,101.3 100.0%
総人口	13,754.5 24.1%	11,140.3 19.5%	11,371.1 19.9%	8,320.1 14.6%	5,209.8 9.1%	3,729.4 6.5%	3,521.2 6.2%	57,046.4 100.0%

図1 タイの障害者の障害別割合

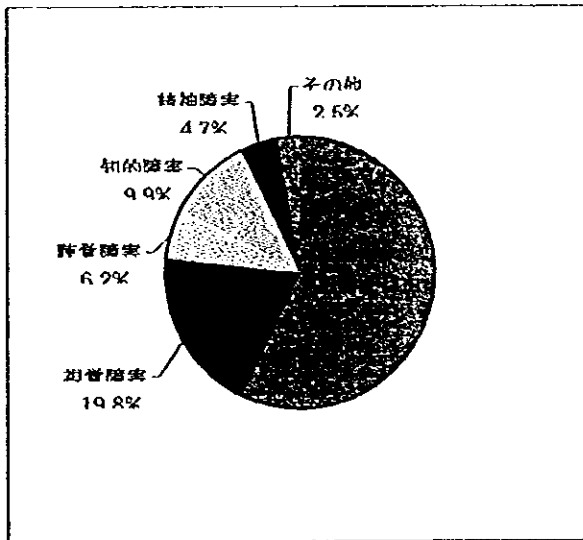


図2 日本の障害者の障害別割合

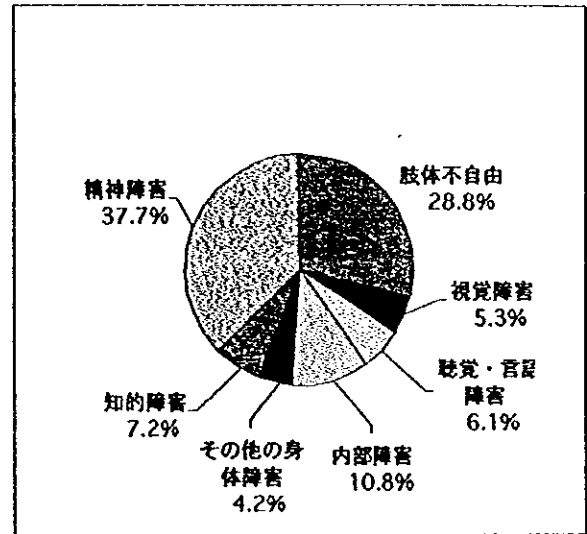


表 1 2000 年中国农村人口性别构成

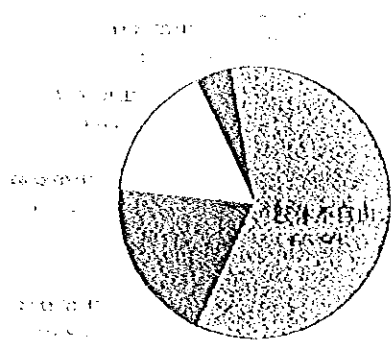


表 2 2000 年中国农村人口年龄构成

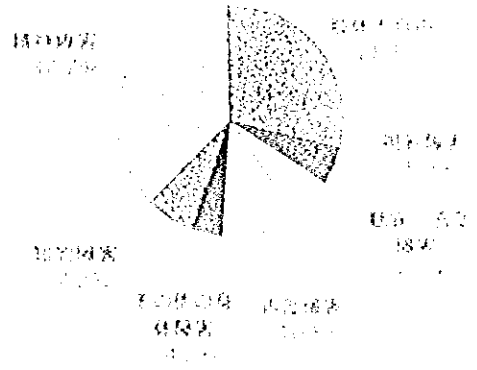


表2 今いちばん困っていること

	人数	割合
収入、経済的なこと	33	24.8%
障害者支援不足に関すること	32	24.1%
仕事に関すること	21	15.8%
なし	10	7.5%
生活に関すること	9	6.8%
学業に関すること	3	2.3%
その他(人間関係など)	13	9.8%
回答なし	21	15.8%
合計	142	106.8%

表3 これからどんな生活がしたいか

	人数	割合
自営以外の仕事、職業訓練に関すること	52	39.1%
障害者支援に関すること	25	18.8%
自営に関すること	23	17.3%
生活、家族に関すること	16	12.0%
教育、学歴に関すること	10	7.5%
その他	20	15.0%
回答なし	12	9.0%
合計	158	118.8%

＜評価団による結論＞
タイにおける今後の3つの重要な観点

- 1) 障害当事者の参加の促進
- 2) 地方における障害者支援の強化
- 3) 市民及び障害者関連施設職員の障害者に対する理解の促進

Presentation Manuscript
Naoto OKAWA
Title: Evaluation of JICA's Past Cooperation Project
and
Lesson for Future JICA's Cooperation

<Introduction>

Sawadee- Cap. My name is OKAWA. I am from the Office of Evaluation and Post-project Monitoring, JICA Head Office. My office is in charge of JICA's evaluation activities including this evaluation.

First of all, we would like to express our appreciation for your kind cooperation extended to us while we conducted this thematic evaluation. Thanks to you, we completed this evaluation with high quality.

<Focus of Evaluation>

→ OHP 1

At the beginning of the presentation on the evaluation results, I would like to confirm the focus of the evaluation.

Please look at this overhead.

There are three main components of this evaluation.

First, the Industrial Rehabilitation Center.

Second, the Japan Overseas Cooperation Volunteer and Senior Volunteer Program.

Third, the Training Programs held in Japan.

Although JICA has used other cooperation schemes, these three are the main form of support for persons with disabilities in Thailand. So, we focused this evaluation on them. The outline of the each component will be explained later.

Today, I have only 40 minutes. So, only I will explain the overview of the evaluation results and lessons extracted from the results. The content of my presentation is the summary of the chapter 4 and 5 of the report, which there is on your desk. So, please refer to the report for more details.

<IRC>

Let's move to an explanation of the evaluation results for Industrial Rehabilitation Center (IRC).

The Government of Japan through JICA provided cooperation for the establishment and proper operation of the IRC in order to facilitate the vocational independence of persons who suffered a disability as a result of an industrial accident. The mandate of the IRC is to provide vocational and medical services to

trainees. So, the Government of Japan provided capital grant aid to prepare the IRC facility and equipment. In addition, the government conducted technical transfer to level up the skill of IRC staffs through the dispatching of Japanese experts to the IRC and the acceptance of IRC staffs in training programs held in Japan under the cooperation scheme of JICA's project-type technical cooperation.

→ OHP2 This is the IRC main building constructed by Japan's capital grant aid.

→ OHP3 This is the scene of vocational training in IRC.

→ OHP4

Please look at this overhead.

>The results of evaluation can be summarized as follows;

- 1) The IRC plays a core role in the nation's policy for employment of disabled persons. It is a pioneer in the field of vocational rehabilitation for those who suffered injuries in industrial accidents.
- 2) The IRC has rehabilitated many trainees, and those who have completed its training are highly satisfied with its services.
- 3) The knowledge level and technical skills on the part of the IRC Director and staffs are particularly high among government agencies, and they are making use of the results of technology transfer by Japan.
- 4) The IRC has a considerable impact on other agencies and has high sustainability.
- 5) The IRC has accepted domestic and foreign observation teams and many trainees from educational institutions for disabled persons. It has thereby spread the technologies transferred from Japan extensively in Thailand and in Asian countries.

→ OHP5

>The IRC's problems to be solved in the future, and their possible solutions can be summarized as follows;

- 1) Building a system that reflects the needs of disabled persons
In order to reflect the needs of disabled persons directly in the IRC's programs menus, it is necessary to build a system that enables disabled persons to positively participate in the decision-making process and operations concerning its activities.
- 2) System for developing a training plan.
In order to flexibly respond to the needs of the trainees themselves and the needs of industry, it is necessary to thoroughly review the training program at regular intervals with the key stakeholders.
- 3) Establishing a follow-up system for those who completed training
It is necessary to establish a system for providing follow-up services for those who completed training at the IRC.
- 4) Collaboration with other institutions for disabled people including NGOS

To provide more multi-layered services, the IRC has to have close relationships with other institutes for persons with disabilities in order to facilitate the exchange of trainees, exchange of information, exchange of new techniques and mutual access to their facilities.

<JOCV>

Let's move to the evaluation results on Japan Overseas Cooperation Volunteers and Senior Volunteers.

JICA dispatches Japanese volunteers to assist the development of various fields, based on the request of the recipient countries. We call volunteers under age 40 Japan Overseas Cooperation Volunteer(JOCV) and volunteers over age 40 Senior Volunteer(SV).

We currently dispatch about 2300 volunteers to about 60 developing countries. In the case of Thailand, the number of volunteers is about 80 including 10 volunteers working in the field of support for persons with disabilities.

→ OHP 6

This overhead shows a scene of swimming rehabilitation services conducted by Ms. Noriko Sato, dispatched to the Pakkred home for disabled children.

This evaluation covered 10 volunteers' activities in the field of support for person with disabilities dispatched between 1987 and 1999.

→ OHP 7

> The results of the evaluation can be summarized as follows;

- 1) It has been learned that the volunteers have high aspirations; make efforts to adapt themselves to the receiving institutions, eagerly provide their services; and the institutions that received the volunteers are fairly satisfied with their services.
- 2) The evaluation also confirmed that the volunteer served as role models, and contributed to the improvement in awareness of disabled persons and in the morale of the staff of the institution.

→ OHP 8

>The problems of volunteer's programs to be solved in the future and their possible solutions can be summarized as follows;

- 1) Issues related to coordination between request and volunteer

There are cases where a volunteer is not sent to a country he desired, or the expertise of a volunteer does not coincide with the field of expertise required by the receiving institution. It was pointed out that this would lead to a misunderstanding on the part of both the receiving institution and the volunteers. As a

possible solution to this problem, applicants for the volunteers should express their priority with respect to host countries, types of job, and receiving institutions so that this information will be reviewed during consideration of the assignments.

2) Provision of sufficient information before and after dispatch

To provide more detail information to the volunteers, JICA has to strengthen its information collection on the assignment of each volunteer and compile relative data stored within JICA.

3) Sharing understanding among JICA, volunteers and receiving institutions.

A system for performing a hand-over ceremony explaining the role of the JOCV at the time of dispatching JOCV should be strengthened, and the JICA Office should study the possibility of upgrading its monitoring system after dispatch of the volunteer.

4) Providing assistance in developing a network that links volunteers

To assist the volunteers for their valuable activities, JICA should support the development of a network among the volunteers and between the volunteers and JICA experts.

5) Enhancement of self-help efforts on the part of volunteers

Regarding the lack of ability to speak Thai, it is basically necessary for volunteers themselves to make continued efforts to acquire a working knowledge of the language. To solve a problem on lack of understanding by the recipient organization on the role of the volunteers and low awareness on the part of receiving institutions, it is necessary for the volunteer members to take the active initiative and explain to the receiving organization their roles in order to promote better understanding.

<Training>

Let's move to the evaluation results on the training programs.

Annually, JICA accepts about 8000 trainees from about 150 developing countries in training programs held in Japan in order to transfer the necessary technologies for the developing countries. The training programs offered by JICA cover various fields including support for persons with disabilities. In the case of Thailand, about 700 trainees are accepted annually to a variety of fields.

This evaluation focused on 77 ex-trainees in the field of support for PWD whom JICA accepted between 1987 and 1999.

→ OHP 9

➤The results of evaluation can be summarized as follows;

In general, the ex-trainees are highly satisfied with the training, and the training results are highly utilized and diffused extensively to their colleagues and relevant persons.

➤the problems of training programs to be solved in the future, and their possible solutions can be summarized as follows;

1) Well-thought-out course setting

In order for trainees to obtain greater results from training, it is necessary for them to participate in courses that match the characteristics of the trainees. So, it is essential to take necessary steps at the time of recruitment, such as defining the requirements more clearly. In addition, it is also important to set up well-thought-out programs that combine lectures for both disabled persons and non-disabled persons, practical training for different kinds of disabilities, and learning case studies based on researches with different fields of expertise.

2) Content of practical training

With respect to the present content of training, many of the ex-trainees desired practical training and visits to institutions that would immediately help them with their duties. Therefore, their needs should be assessed at periodically, and the content of training should be reviewed. Since techniques that require the latest equipment and budget may not be utilized in many cases after trainees return to Thailand, it is necessary to consider providing training mainly in techniques that can be actually put into practice in developing countries including Thailand.

3) Development of a follow-up system

Since there tends to be a shortage of the latest information in the field of supporting disabled persons in Thailand, many of the ex-trainees requested that the latest information should be provided after training, and that in-country training should be held. To this end, JICA must work in the future to develop a follow-up system for ex-trainees such as expanding opportunities for in-country training and providing new information.

4) Coordination within JICA with respect to disability training

Although various kinds of disability-related projects are being implemented by JICA, these projects are separately managed with little collaboration. If there is more coordination among disability-related projects, more effective cooperation results can be obtained.

<Overall Evaluation>

→ OHP10

Until now, I presented the evaluation results and problems to be solved in the future of each activity. Next, I would like to explain the overall evaluation results of JICA's activities.

JICA started off its cooperation in the field of supporting disabled persons with the cooperation for the IRC in 1983.

In those days, the general public in Thailand had a very low awareness of disabled persons, and it can be said that the government virtually provided no services to support persons with disabilities. As the awareness of disabled persons on the part of the general public in Thailand has started to grow with the enactment of the Act for Rehabilitation of Disabled persons in 1991, the IRC has played a central role in the diffusion of the concept of rehabilitation of disabled persons and in technical development. In particular, the fact that the IRC has achieved a self-sustaining growth in response to the growing domestic demand in Thailand demonstrates the relevance of the cooperation.

With the popularization of rehabilitation of persons with disabilities in Thailand, demand for human resources development in the field has been growing significantly since the early 1990s. About this time, JICA started to accept administrators, staff members of institutions and persons with disabilities from Thailand on a full-scale basis as trainees. JICA has also contributed to training of pioneering leaders and introduction of advanced techniques and systems in the field of supporting disabled persons. In addition, JICA has played a significant role not only in sending its volunteers to institutions for disabled persons in Thailand and transferring techniques to the staff of such institutions, but also in improving understanding and the support by the general public for disabled persons.

As explained until now, it can be said that JICA cooperation has been effective in achieving its objectives, and JICA has greatly contributed to the development of basic conditions for supporting persons with disabilities in Thailand.

<Lesson>

The section on the evaluation results is completed. I will now move to lessons for future JICA cooperation extracted from the evaluation results.

As you may know, our evaluation is two purposes.

First, it is to confirm the outcomes of our past cooperation.

Second, it is to extract useful lessons from the evaluation results for the improvement of future cooperation.

We extracted several useful lessons from the evaluation results.

First, I will explain the lessons for the direction of future cooperation, and then I will move to

cross-cutting lessons about project formation and implementation.

→ OHP11

>As for the future direction of the JICA's cooperation, the following three points have been confirmed in this evaluation.

- (1) In keeping with the international trends, the Thai government is organizing a system for supporting persons with disabilities in order to realize the equalization of opportunities for them.
- (2) To realize it, it is important to promote activities not only of the government, but also of organizations of disabled persons and of NGOs, and it is essential to involve the entire society.
- (3) Fundamental human resources, facilities and financial resources required to support disabled persons are secured to some extent at the central level.

Therefore, JICA should focus its cooperation policy on expanding support to disabled persons in rural areas where progress has been slow in providing support. JICA should also provide cooperation in collaboration not only with the government, but also with organizations of disabled persons, and NGOs to help the Thai government implement policies.

Since Thailand is a center of Indochina in terms of social and economical aspects, it has a significant influence on its neighboring countries. In addition, it is ahead of its neighboring countries in the field of supporting disabled persons. Therefore, provision of support to disabled persons in the neighboring countries with Thailand forms an important framework for efficient and effective provision of cooperation in supporting disabled persons not only in Indochina, but also in the Asian and Pacific region. And collaboration with ESCAP that has a long experience in supporting disabled persons in the region and NGOs will be highly beneficial in forming and implementing cooperation projects in line with such a framework.

→ OHP12

>As for Cross-cutting lessons learned about project formation and implementation,

- 1) Development of an environment for the active participation of disabled persons in development cooperation

A disability itself can be seen as a specialty, and disabled persons know their needs better than anyone else. Active disabled persons are very effective in educating other disabled persons by serving as a role model. As a matter of fact, NGOs participated by disabled persons in their action planning and implementation are efficiently carrying out activities that meet the needs of disabled persons. Therefore, in order to efficiently implement cooperation projects that satisfy the needs of disabled persons, it is necessary for JICA to promote disabled persons in Japan and in Thailand to actively participate in all the stages of the project cycle. It is important to study and provide the conditions that facilitate the participation of disabled

評価の対象

- ① 「労災リハビリテーションセンター」(IRC)
- ② 協力隊員及びシニアボランティア 10名
- ③ 研修員 77名

労災リハビリテーションセンター

<評価結果の総括（IRC）>

- ① 労災被災者のための職業リハビリテーション分野のパイオニアとして、国の障害者就業政策の中核を担っている。
- ② 多くの訓練生を社会復帰させており、同センターのサービスに対する訓練修了生の満足度は高い。
- ③ 政府機関の中では、所長以下、職員の意識・技術ともに高く、日本側の技術移転の成果を活かしている。
- ④ 他の機関への波及効果、自立発展性ともに高い。
- ⑤ 国内外から視察団や障害者関連教育機関から多くの実習生を受け入れており、日本から移転された技術が、広く国内及びアジア諸国に移転されている。

＜今後の課題（IRC）＞

- ①障害当事者のニーズを反映させる体制を構築
- ②訓練メニューの開発体制
- ③訓練修了生に対するフォローアップ体制の確立
- ④NGOを含めた他の障害者施設との連携

＜評価結果の総括（協力隊・シニアボランティア）＞

① 協力隊員は高い志を持ち、派遣先に適合する努力を行いながら、熱心に活動し、受入機関も協力隊員の活動にほぼ満足している。

② 協力隊員がロールモデルとなり、受入機関の職員の障害者に対する意識やモラルの向上に貢献している。

＜今後の課題（協力隊・シニアボランティア）＞

- ① 要請と派遣隊員の調整に係る課題
- ② 派遣前・派遣中の情報提供の強化
- ③ JICA と隊員と配属先とによる理解の共有
- ④ 任国での隊員間のネットワーク発展への援助
- ⑤ 隊員のさらなる自助努力

<評価結果の総括（研修員）>

帰国研修員の研修に対する満足度は概して高く、研修成果の活用度及び周辺への普及度は高い。

<今後の課題（研修員）>

- ①きめ細かいコース設定
- ②実践的な研修内容
- ③フォローアップ体制の整備
- ④JICA 内での障害関係研修のコーディネーション

総合評価

JICA が行ってきてきた協力はタイ側のニーズにマッチした効果을上げており、タイにおける障害者の社会への完全参加と平等を實現するための基盤整備に大きく貢献してきてきた。

JICA の協力への教訓

<今後の協力の方向性>

- ① 今後、JICA は、遅れている地方の障害者への支援拡大を中心に置きつつ、タイ政府の政策の実現に向けて、政府のみならず、障害当事者団体、NGO と連携して協力を行うべきである。
- ② 「タイを核としたアジア・太平洋地域への障害者支援」は協力を効率・効果的に行う上で重要なフレームワークある。

＜案件形成・実施に係る横断的な教訓＞

- ① 協力への障害者の積極的参加及び参加に向けての環境整備
- ② 協力における障害者への配慮
- ③ NGO との連携